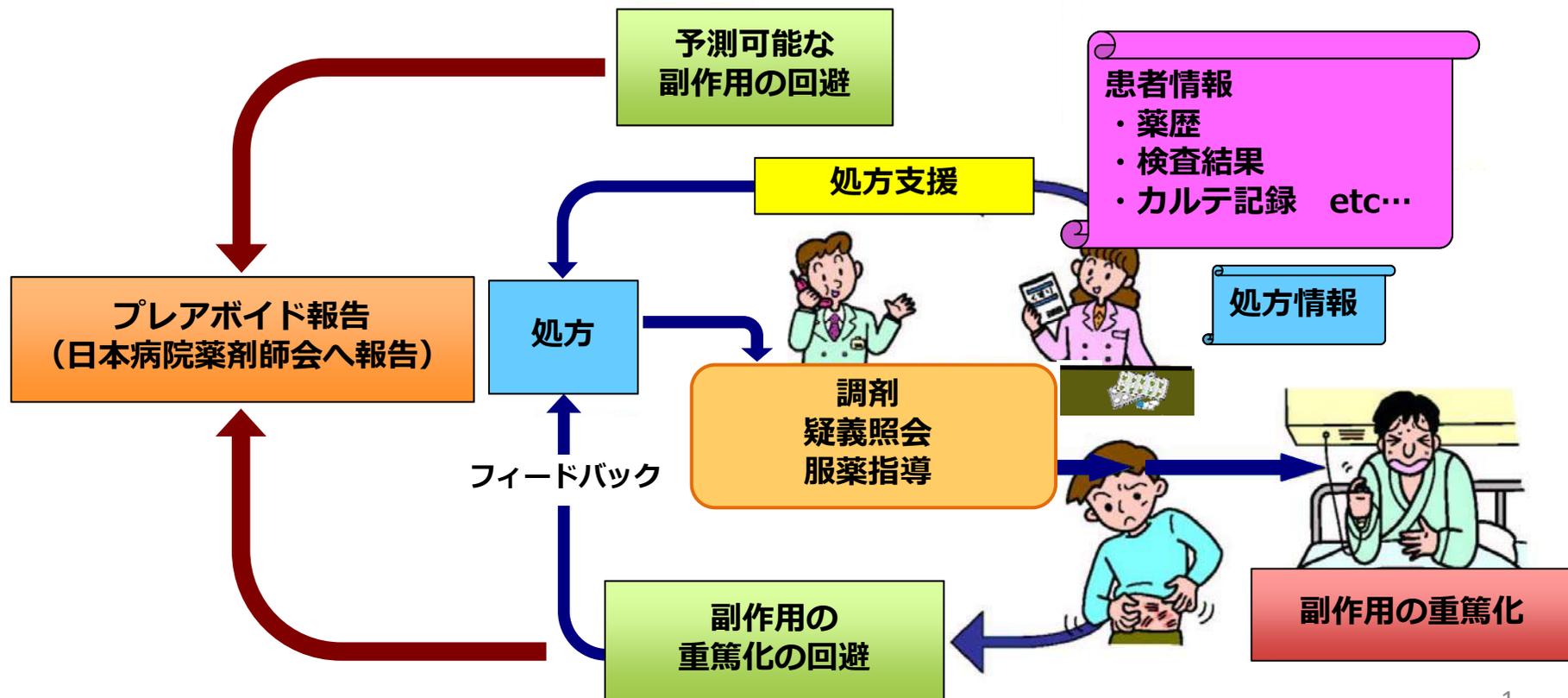


# プレアボイドとは

## Be **PRE**pared to **AVOID** the adverse drug reactions (プレアボイド) 報告

日本病院薬剤師会では、薬剤師が薬物療法に直接関与し、**薬学的患者ケアを実践して患者の不利益**(副作用、相互作用、治療効果不十分など)**を回避あるいは軽減した事例**を“**プレアボイド**”と称して報告を収集しており、年間数千件の報告が集積されている。



# 疑義照会の法的根拠

## 薬剤師法第23条の2（処方せんによる調剤）

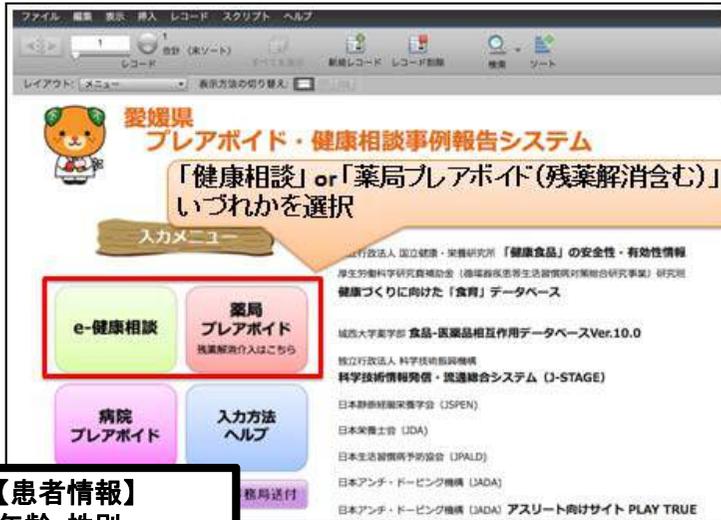
薬剤師は、処方せんに記載された医薬品につき、その処方せんを交付した医師、歯科医師又は獣医師の同意を得た場合を除くほか、これを変更して調剤してはならない。

## 薬剤師法第24条（処方せん中の疑義）

薬剤師は、処方せん中に疑わしい点があるときは、その処方せんを交付した医師、歯科医師又は獣医師に問い合わせ、その疑わしい点を確認した後でなければ、これによって調剤してはならない。

## 保険医療機関及び保険医療費担当規則第23条の2

保険医は、その交付した処方せんに関し、保険薬剤師から疑義の照会があつた場合には、これに適切に対応しなければならない。



**【患者情報】**  
 年齢・性別  
 腎機能、肝機能  
 副作用歴  
 アレルギー歴  
 治療中の疾患

**【発端】**  
 顧客の訴え  
 報道・雑誌 など

**【原因】**  
 ワクチン接種  
 サプリメント副作用  
 危険ドラッグ 等

**【介入】**  
 OTC・サプリ追加  
 市町窓口紹介  
 食事指導  
 健康イベント紹介等

**【報告者情報】**  
 氏名  
 e-mail  
 所属施設名  
 事例発生日など

**e-健康相談**

【患者情報】  
 報告年度: 平成27年度  
 患者氏名: 氏名  
 年齢: 歳  
 性別: 性別  
 腎機能: 腎機能  
 肝機能: 肝機能  
 副作用歴: 副作用歴  
 アレルギー歴: アレルギー歴  
 治療中の疾患: 治療中の疾患

【発端】  
 顧客の訴え: 顧客の訴え  
 報道・雑誌 など: 報道・雑誌 など

【原因】  
 ワクチン接種: ワクチン接種  
 サプリメント副作用: サプリメント副作用  
 危険ドラッグ 等: 危険ドラッグ 等

【介入】  
 OTC・サプリ追加: OTC・サプリ追加  
 市町窓口紹介: 市町窓口紹介  
 食事指導: 食事指導  
 健康イベント紹介等: 健康イベント紹介等

【報告者情報】  
 氏名: 氏名  
 e-mail: e-mail  
 所属施設名: 所属施設名  
 事例発生日など: 事例発生日など

**【患者情報】**  
 年齢・性別  
 腎機能、肝機能  
 副作用歴  
 アレルギー歴  
 治療中の疾患

**処方変更の有無**

**関与した薬剤師**

**【発端】**  
 患者の訴え・相談  
 医師から、看護師から  
 薬歴、ケアマネジャー  
 検査結果、処方せん、  
 患者の症状、  
 残薬確認

**【介入対象薬剤】**  
 1. 抗がん剤  
 (支持療法含む)  
 2. 注射抗菌薬  
 3. ハイリスク薬  
 4. その他一般薬

**【薬学的介入の種類】**  
 薬剤中止  
 薬剤変更  
 薬剤減量  
 薬剤増量  
 薬剤追加  
 服薬指導  
 調剤法変更  
 用法変更  
 日数変更  
 投与方法  
 その他 記載

# 薬局プレアボイド

**【薬局プレアボイド】**

報告年度: 平成27年度  
 患者氏名: 氏名  
 年齢: 歳  
 性別: 性別  
 腎機能: 腎機能  
 肝機能: 肝機能  
 副作用歴: 副作用歴  
 アレルギー歴: アレルギー歴  
 治療中の疾患: 治療中の疾患

【処方変更の有無】  
 あり  なし

【関与した薬剤師】  
 あり  なし

【発端】  
 患者(家族)の訴え・相談  
 ケアマネジャーからの相談  
 患者の訴え・相談  
 その他

【原因】  
 処方せん  
 その他

【重大な副作用】  
 軽減  
 回避

【介入】  
 薬剤中止  
 薬剤変更  
 薬剤減量  
 薬剤増量  
 薬剤追加  
 服薬指導  
 調剤法変更  
 用法変更  
 日数変更  
 投与方法  
 その他

**【原因】**  
 重大な副作用  
 中毒  
 禁忌  
 特殊な状況  
 処方もれ  
 誤処方  
 残薬など

**【重大な副作用】**  
 軽減  
 回避

**薬品マスタで薬価収載品目から選択**

薬品名	投与量	単位	剤型	剤数	日数	用法	効果

**報告者のコメント**

報告者のコメント欄

**残薬介入記録**

薬品名	投与量	単位	剤数	日数	用法	効果

**【報告者情報】**  
 氏名  
 e-mail  
 所属施設名  
 事例発生日など

# (薬局プレアボイドの例)

## #3. がん化学療法への介入

➡ 処方もれの防止により直接的に患者が必要な薬物療法を適切に受けることができないという不利益を回避する介入が最も多かった

### ゼローダの処方日数不足

ゼローダを2投1休で服用予定であるが、7日分しか処方がなく、次回受診は21日後であった。

ゼローダの処方7日分追加

### カペシタビンの投与量間違い

ゼローダを3600mg/日で服用中の患者に4200mg/日で処方されていた。疑義照会を行うと3600mg/日の間違いであった。

ゼローダの減量

### 相互作用回避(抗がん剤の吸収率の上昇あるいは低下を防止)

イレッサとガスターを昼食後に同時服用することによりイレッサのAUCが低下するおそれがある。

服用タイミングの変更  
イレッサ：昼食後 ガスター：夕食後

# (薬局プレアボイドの例)

## #5. 腎機能に応じた投与量推奨(がん化学療法を除く)

### サワシリンカプセルの減量

透析中の患者で、サワシリン(250)が二次除菌の際に通常量での投与となっていたため疑義照会し、6CP/日から4CPに減量された。

### バリキサ錠の減量

バリキサ4錠/日の処方であったが、1ヶ月前の検査結果と比べて腎機能が低下(血清Cr1.21,eGFR47.3)していたため疑義照会した。初期治療の用量で良いが、腎機能に応じて2錠/日に減量された。

## #7. 薬歴の聴取

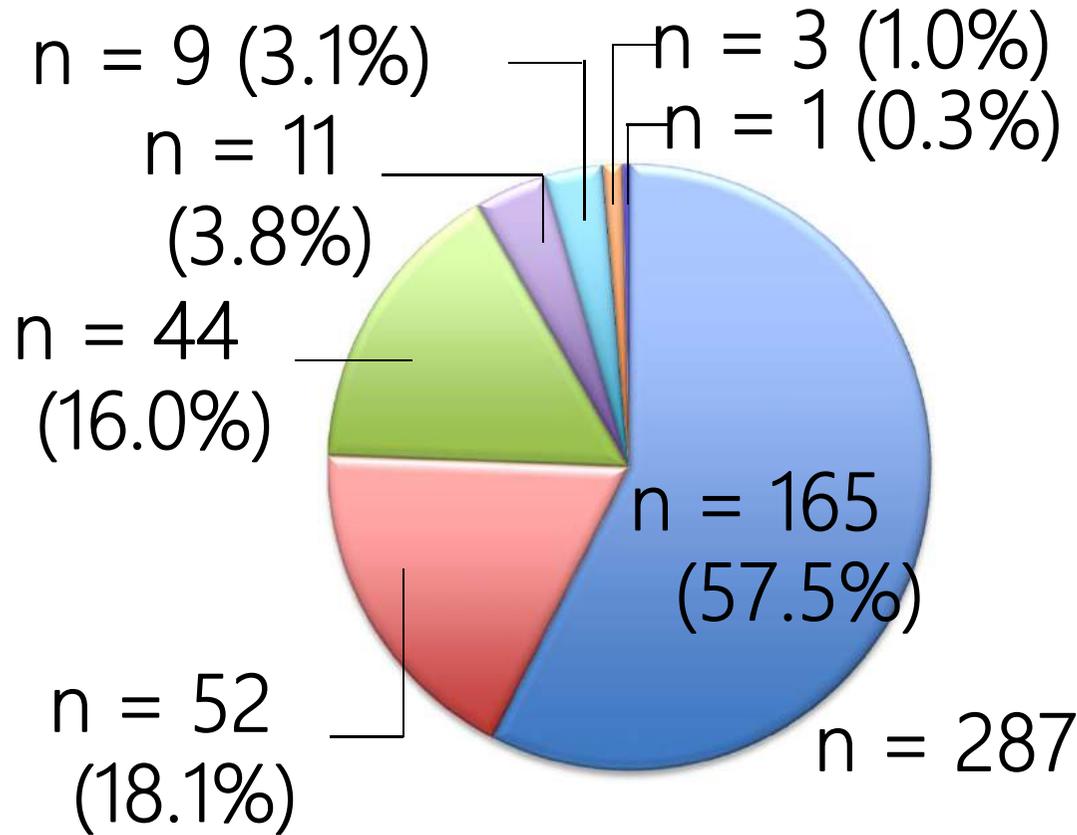
➡ ノンコンプライアンスの改善が大半を占めていた

患者希望にてアドヒアランス向上のため一包化。

高齢で錠剤の服用が困難であったため、錠剤から細粒へ剤形変更した。

# (薬局プレアボイドの例)

## #8. その他の薬物療法提案



### 誤処方

エクセグラン錠 25錠/日  
↓  
エクセグラン散 25mg/日

### 禁忌薬の中止

デトルシロールが初めて処方されたが、医師には自分が緑内障だとは言っていなかった。

他の医療機関との重複  
同種同効薬の重複  
不要薬の漫然投与など

- 誤転記・誤処方に対する介入
- 処方もれの確認
- 不要薬の中止
- 副作用対策
- 禁忌薬の処方回避
- 他の諸症状に対する提案
- 服薬が困難な状況に対する介入(1包化など)

# (薬解消の例)

## 残薬解消介入

件数: 139件  
(のべ164薬剤)

→ 自己調節して使用する  
薬剤が上位を占めていた

残薬解消介入

↓  
高齢者への服薬指導

↓  
アドヒアランス向上

(上位10分類)

対象薬剤	件数
眼科用剤(外用)	42
下剤	20
血圧降下剤	10
催眠鎮静剤	9
血液凝固・血小板凝集阻止剤	9
鎮痛、鎮痒、収斂、 消炎剤(外用)	9
消化性潰瘍用剤、健胃消化剤、制酸剤	8
利尿剤	6
高脂血症用剤	6
主として一般細菌に作用するもの	6

# 介入の発端と関与した薬剤師

発端	薬学的介入	割合(%)
患者・家族の訴え相談	173	29.5
医師からの相談	0	0.0
看護師からの相談	0	0.0
ケアマネからの相談	0	0.0
患者の症状	8	1.4
処方せん	204	34.8
注射せん	0	0.0
薬歴	99	16.9
検査結果	3	0.5
残薬確認	95	16.2
その他	4	0.7
合計	586	100.0

関与した薬剤師	薬学的介入	割合(%)
処方せん調剤	329	78.1
薬局内での患者面談	88	20.9
注射せん調剤	0	0.0
在宅での患者面談	4	1.0
注射無菌性剤	0	0.0
セルフメディケーション	0	0.0
その他	0	0.0
合計	421	100.0

※複数選択あり

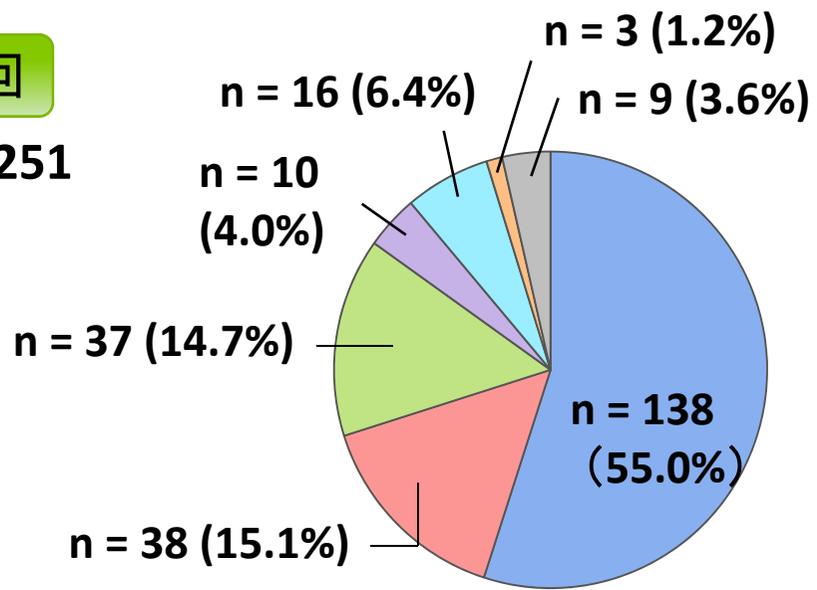
# 薬学的ケアの種類

ケアの種類	薬学的介入	割合(%)
薬剤中止	49	17.1
用法変更	22	7.7
薬剤減量	53	18.5
薬剤追加	37	12.9
薬剤増量	21	7.3
薬剤変更	55	19.2
調剤法変更	6	2.1
剤形変更	7	2.4
服薬指導	2	0.7
投与方法変更	0	0.0
日数変更	31	10.8
その他	4	1.4
合計	287	100.0

# 薬物療法の提案(薬局)

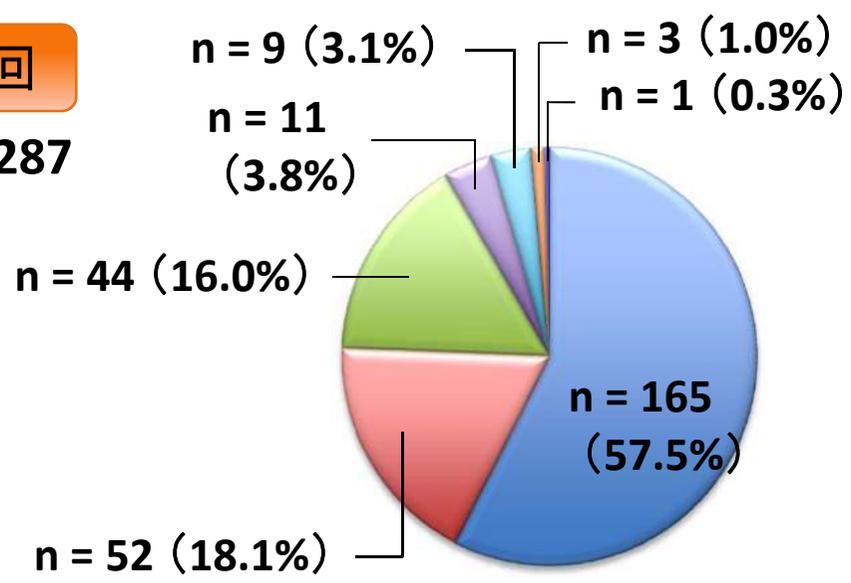
今回

n = 251



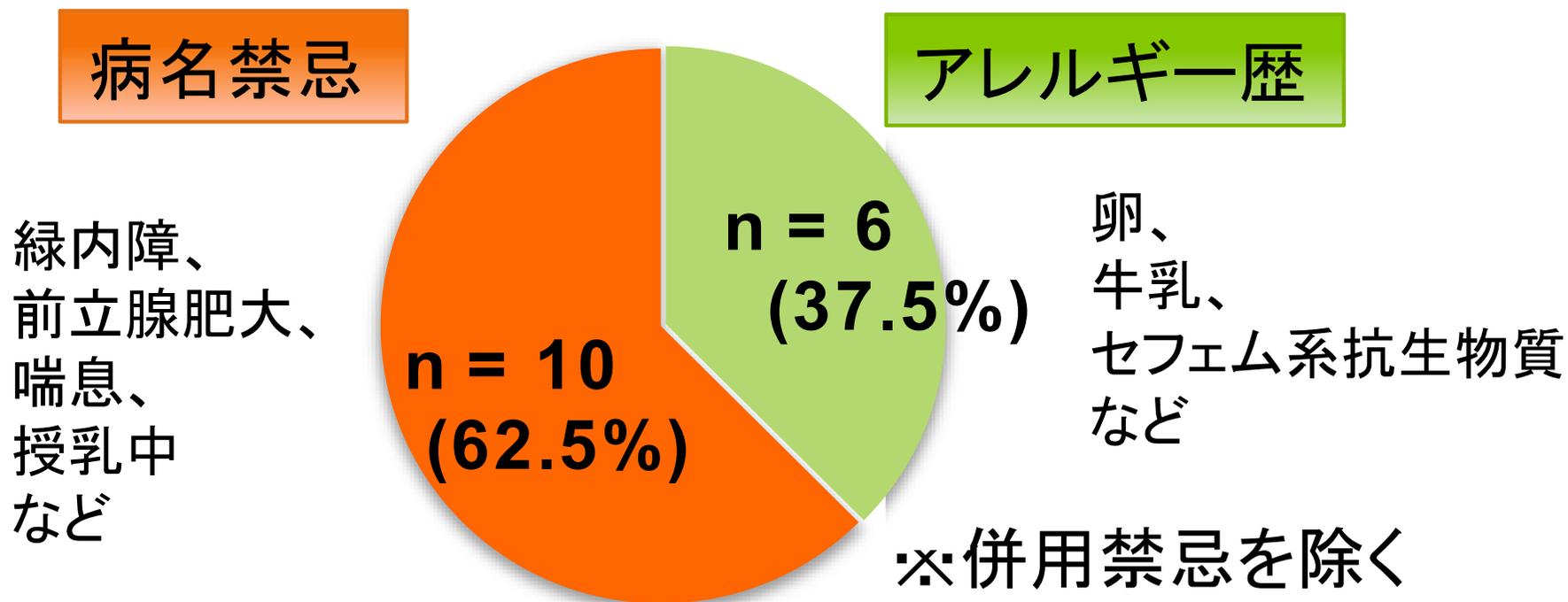
前回

n = 287

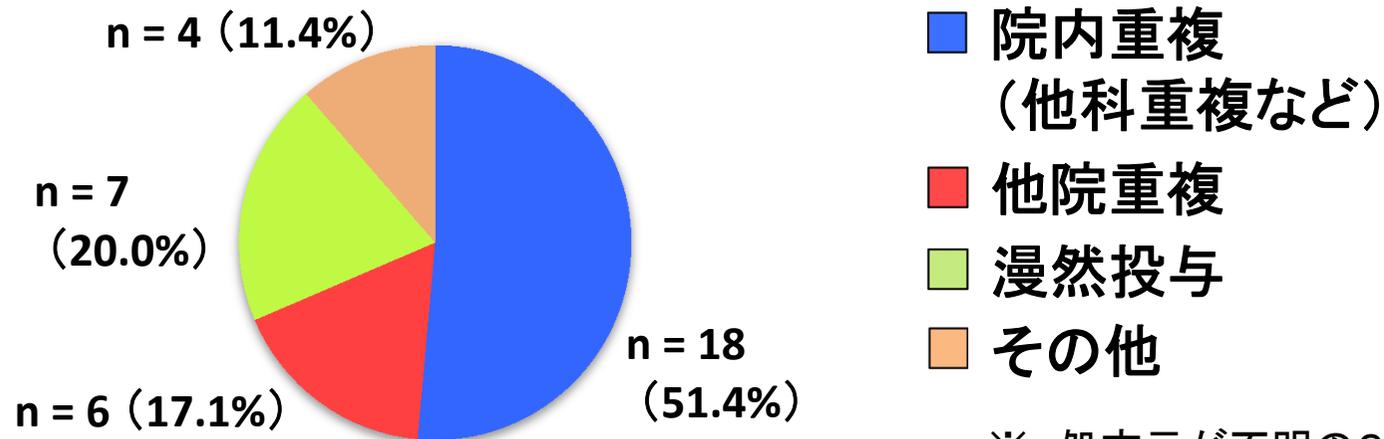


- 誤転記・誤処方に対する介入
- 処方もれの確認
- 不要薬の中止
- 副作用対策
- 禁忌症例の処方回避
- 他の諸症状に対する提案
- その他

# 禁忌症例の処方回避



# 不要薬の中止(薬局)



※ 処方元が不明の2件を除く

ネキシウムが処方されたが、他院でラベプラゾールを内服中であり、ネキシウムが中止となった。

トラムセット配合錠を今までに合計84日分服用したが、全く効果を感じていない旨聴取したため、疑義照会を行い、患者には整形受診を勧めた。処方医より漸減後に処方中止との回答。3錠/日 3日分→2錠/日 3日分→1錠/日 3日分→服用終了と患者に説明。

チャンピックスの投与期間が満了となっていたため、疑義照会し中止となった。

カルボシステインは入院中から中止になっていたが、処方されていたため疑義照会し中止となった。

# 優良事例(薬局)

## # 重大な副作用の回避または重篤化回避

### 1. 症状を聴取し、重要な基本的注意に基づいて重大な副作用を回避した事例

#### 在宅患者面談時

ラシックス錠40mgを内服中の患者で、血圧が100以下かつ脱水を起こしているような症状があったため検査を依頼した結果、脱水と診断されてラシックスは中止となった。

### 2. 検査値を確認し、重要な基本的注意に基づいて重大な副作用を回避した事例

#### 患者からの相談

バルトレックス錠(500mg)3錠/日で服用中の患者から「慢性腎炎だが大丈夫か？」と電話相談があった。検査値を確認すると血清Cr:6.5、Ccr:7.4であり、ファムビル錠へ変更となった。

### 3. 副作用歴を確認し、重大な副作用を回避した事例

#### 副作用歴を確認

以前、オゼックス細粒で痙攣(重大な副作用)を起こし入院した経験あり。オゼックス細粒が処方されていたため、パセトシン細粒へ変更となった。

# 優良事例(薬局)

## # 症状に対する処方提案

何ヶ月も喘息の状態が悪く、常に肺雑音(+)、投薬時も呼吸が浅い感じがあったため、疑義照会にてレルベアの用量アップを提案した。  
→レルベアエリプタの規格が100から200に変更となった。

## # その他の副作用(副作用対策)

アリセプトD錠3mg開始後、興奮状態が見られ、ヘルパーさんへの暴言もあった。運動量が増えて気管支喘息(慎重投与)の症状も悪化していたため疑義照会した結果、アリセプトは中止となった。